

## 触媒学会創立 60 周年記念式典の挨拶

平成 30 年度 触媒学会会長  
福岡 淳

本年度会長を仰せつかっております福岡でございます。開会にあたり触媒学会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日はご多忙のなか、また台風で天候の悪い中、大勢の皆様にご出席いただき誠にありがとうございます。またご来賓として、文部科学省環境エネルギー課課長 横地様、日本化学会常務理事 澤本様、触媒工業協会会長 岡田様、北海道大学触媒科学研究所所長 長谷川様をはじめ、名誉会員、団体会員、関連学協会の皆様のご臨席を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

触媒とは化学反応を促進する物質です。そして、触媒は資源・エネルギー変換および環境浄化などの分野において、重要な役割を果たしています。一般社団法人触媒学会の目的は、このような触媒の科学・技術に関する最新情報を交換する場として、産官学の会員の便宜を図ることです。

本会は、1958 年、昭和 33 年 7 月に触媒懇談会として発足してから、今年で満 60 年を迎えました。設立当初は、化学反応における反応機構の研究が盛んでした。その後、石油化学が隆盛となり、プラスチックなどの新しい材料のための触媒開発が進みましたが、社会の進展とともに触媒の対象分野は拡大し、大気汚染やオイルショックを契機として、環境浄化、石油からの原料転換のための触媒研究が進みました。さらに、今後は持続可能な開発のために大きな貢献をするものと期待されております。このように、触媒の研究は常に社会的な課題を解決するという要請に基づいております。しかし、基盤となるのは学術としての触媒化学です。この学術的な重要性は、触媒に関連する研究が、いくつかのノーベル賞の対象となっていることから分かります。

今週、ここ横浜パシフィコで本会が主催して行っている国際会議 TOCAT では、触媒の学術・技術について最新の研究成果の発表が行われております。新しい触媒材料や反応に関する研究発表があることに加え、最近では触媒反応の現場を直接、目で見て観察することができるようになりました。さらには、機械学習で触媒を設計することが可能となりつつあります。

また、TOCAT は、工業触媒セッションをもつことを特色とする国際会議です。今回の TOCAT8 が、1000 人以上の参加者を集め、発表の数が 900 以上となっていることは、最新の研究成果の情報を得る場として、TOCAT の重要性が高まっていることを示しています。これも TOCAT を始めた先輩の皆様の、高い見識と先見性の賜物と考えております。

触媒学会は、このような触媒の学術・技術の最新の成果について発表し、議論する場を提供してきました。本会の活動の中心は、討論会の開催と、会誌触媒の発行です。本日、記念式典を開催するにあたり、このような本会活動にご尽力をいただいた功労者の方々に改めて感謝申し上げます。これらの方々を代表して今回、お二人の方を表彰申し上げます。これらの方々を代表して今回、お二人の方を表彰申し上げます。心から慶びとするところでございます。

表彰に続き、触媒学会の歩みにつきましては、この後、私がスライドを使って説明いたしますが、記念講演において本会名誉会員の小野先生には、学会の 60 年を振り返っていただきます。さらに、本会元会長の永原様には今後の触媒への期待について、ご講演をいただきます。触媒学会の特徴は、討論会における率直な議論であり、この率直な討論こそが、新しい発想を生む原動力となるとともに、会員相互の友情を育んできました。小野先生、永原様には、おそらく率直なご意見をいただけるものと考えております。

最後に、皆様のご健勝とご発展を祈念するとともに、今後も本会に対してご支援を賜りますようお願いして、挨拶といたします。

どうもありがとうございました。